



特集

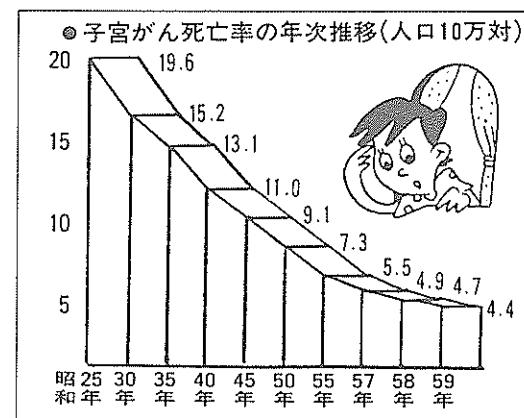
健康を 検診は

私は南園市衛生委員を委嘱され
て十八年余りの間に、多くの話を
聞いてきました。「もう少し、も
う少しだけ早かつたら」「早期発
見したので大丈夫」など。

私たち衛生委員は少しでも皆さ
んの健康な生活のお手伝いができ
たらと、それぞれの地区や部隊で、
各種の成人病、胃がん、乳腺がん、
子宮がん検診の受診者を勧誘して
回っています。最近では理解者も

増え、受診者の数もうなぎでに増えてきました。でも子宮がんだけは、「奥さん、子宮がんの検診を受けませんか」と呼びかけても、大多数の人が、「恥ずかしいからけつこうです。もう少し年を取つたら」と言います。中には「子宮がんになつたら」と言う人もいます。私は女房に三十歳のときから検診を受けてもらっています。結婚して十数年、我が家は女房を

ます。献血です。休むことなく流れれる血液、それはあなたの健康状態を如実に表わしています。現在献血をすると、八項目にわたる血液検査をしてくれます。近くエイズの抗体検査も加わるようです。集団検診で病気を早期発見し、献血で血液検査をする。これで十分というわけではあります。皆さんの健康生活の一助にでもなればと頑張っています。



技術の進歩や治療法の発達のためと考えられます。『早期発見』それはどちらにんにも重要なことです。ほとんど症状のない初期にがんを発見するにはまず検診死亡数は年々減少しているといつても毎年およそ五千人が亡くなっています。まだまだ女性にとって油断のできないがんなのです。

検診)に合わせて施設検診(医療機関を利用した検診)に取り組んでいます。今年の三月と八月、それぞれ三日間、テストケースとして実施し、何回か検討を重ね、十分対応できると確信を得ることができました。来年度からは、施設検診がいよいよ本格的に取り入れられていくことになると思います。

した。こゝへしたが近い傍は最高の
教訓です。市の担当者の努力で年
年受診率は上昇しています。「ま
さか自分が」とか「恥ずかしい」
とか思わないで、検診の機会を大
いに利用してほしいと思います。
発生原因が解明されていないが
んには、現在的確な予防方法はな
いのです。明日がんに侵されない
という保証もありません。万が一
のことを考えて、わずか年一回の
検診を忘れないで受けたほしいも
のです。

健康は検診から



健康クイズ



メントは広報に出ています。

■問題・四十歳からの健康週間
は〇月〇日～〇月〇日です。

■締め切り・十月十五日（消印有効）

■あて先・〒783 南国市大
塚甲二三〇一 南国市役所内環
境保健課保健係

■答えのハガキには必ず、住所、
氏名、年齢、職業を書いてくだ
さい。

■賞品・正解者の中から抽選で
五人にヘルスマーテーを進呈。

考える〇〇〇(1)

私が検診を受けたのは、市役所職場で行われた四十歳以上の成人病検診に十日ほど日数が満たないので、自己負担で受けなければいけないと知らされてやめたのをちよつと残念思つていたところへ市役所から三十歳、四十歳誕生日検診の案内をもらつたのです。日曜日で仕事が休みだつたし、個人あてで無料というはがきに、行つてみようと思つました。

循環器や胃がん、乳腺がん、子宮がんなどの成人病の検診で、多

数の人が来ていきました。
「カ月ほどたって、保健婦さんより「子宮がん検診の結果、病院で再検査を受けるようにな」と渡された封筒の重たかったこと、「困ったことがあれば相談に来てください」と書われた言葉、私には突然で思つてもみなかつたことでした。

結果はやはりがんでした。主治医の先生は優しい言葉で、「初期なので本人に言いますが、取り除けば完全に治りますし、おなかを明ることもなく、二週間ぐらいで

一週間後と手術の日を決めて、母に二日ほど付き添いを頼み、子供を弟夫婦に預け、会社には「一ヵ月の休暇願いを出しました。入院までの不安な一週間は、とても言葉では言い尽くしがたいものでしたが、今ではもう遠い日のことのようです。

あれから一年、三ヶ月ごとの検査を重ね、どこにも転移はないといふ結果に胸をなで下ろしています。がんの進行は早いと言います。が、この検診を受けず翌年まで延べ、自分の健康は自分で守る——」

手遅れで手術もできず、丸山ワクチンも氣休めにすぎず、四ヶ月ほどで逝ってしまいました。肉親ががんと分かったとき、初期なら治るとしても、末期がんとなると、家族は肉体的にも精神的にも、また金銭的にも苦闘の日々を送らなければなりません。

検診を受けるのは恥ずかしいとか、忙しいとか言つていられないと思います。自分のため、家族や子供のため、本当に検診を受けてよかつたと思っています。

がんと検診

(南國產婦人科院長)

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a light-colored shirt.

40歳記念検診を受けて

(上倉地区・会社員、41歳)

受けたのは、市役所
がきっかけでした。
四十歳以上の成人
は「子育て奨励金」
数の人が来ていました。
一ヵ月ほどたって、保

からのはがきがきつかけでした。職場で行われた四十歳以上の成人病検診に十日ほど日数が満たない

—カ月ほどたって、保健婦さんより「子宮がん検診の結果、病院で再検査を受けるように」と渡さ

退院できるので、すぐ入院をしないで下さい」と言わましたが、家庭、子供、仕事のことなどが頭をかすめ、夜も眠れず、前途が真っ暗になる思いでした。

一週間後と手術の日を決めて、母に二日ほど付き添いを頼み、子供を弟夫婦に預け、会社には「今月の休暇願いを出しました。入院

はしていただらと思うにつけ、本当に受けよかったです。